

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

## ②施設・事業所情報

名称：アートチャイルドケア津田山きらら	種別：保育所
代表者氏名：園長 川上泰典	定員（利用人数）： 30名
所在地：〒 213-0033 神奈川県川崎市高津区下作延6丁目6番21号 アネックスK 1F	
TEL：044-281-8889	ホームページ： <a href="https://www.the0123child.com/">https://www.the0123child.com/</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2008年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：アートチャイルドケア株式会社	
職員数	常勤職員： 5名 非常勤職員： 9名
専門職員	施設長 1名 保育補助 1名
	副主任 1名 栄養士 1名
	保育士 8名 事務 1名
	用務 1名
施設・設備 の概要	（居室数） 居室数6（乳児室1、保育室 2、調理室1、沐浴室1、医 務室(事務所兼)1）
	（設備等） 幼児用トイレ、多目的トイレ、冷暖房、 床暖房

## ③理念・基本方針

## 【保育理念】

～「自分らしく」生きていくことのできる子どもを～  
 子どもの全人格を尊重し、子どもたちが本来持っている「生きる力」を育み、何を学ぶかよりも、どう学ぶかを考えられる子どもを育てたい

## 【保育目標】

そんな子どもたちを育てていくため「安心と安全」を前提に

- ・睡眠と生活リズムを整える事を目指して保育を展開していきます
- ・一人一人の個性と成長に応じた保育を展開していきます
- ・子どもの「失敗」を受け止める保育を展開していきます

## ④施設・事業所の特徴的な取組

## 【子どもに向き合う保育】

保育士が子どもの目線に合わせ、お互いの気持ちに気付き、心を通い合わせることで、信頼関係が築かれるサイクルを循環し、大人の都合で子どもたちを向かせるのではなく、子どもの目線を大切にし、一人ひとりに向き合い、関わり合いながら日常の中で、保育者と子ども、子ども同士の信頼関係を築いています。31人の小規模園を生かした家庭的な保育を実践しています。

### 【遊びを土台とした保育】

外部から講師を招き、遊びを土台とした体操教室と英語教室を展開し、年齢別に目標を設け、各々隔週で行っています。楽しく遊びながら「知育」「体育」「愛情」「礼節」「集中力」「バランス力」「情操」を育成し、人間形成への重要な幼児期の感性を育てています。

### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年8月1日（契約日）～ 2021年4月22日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（平成29年度）

### ⑥総評

#### ◇特に評価の高い点

#### 働きやすい環境づくりに尽力している

園長は今年度半ばから就任して間もないため、地域の状況把握や保護者との信頼関係づくりなど様々な課題に取り組みをはじめているが、園内における職員の環境づくりも大切であると考えている。ワンフロアであるため職員の休憩場所がなかったことから、休憩時間を確保しリフレッシュして保育にあたるように2階に休憩室を確保するなど、環境を整えることに取り組んでいる。休憩室は保護者との相談スペースとしても利用可能であり、プライバシーに配慮した場所の確保にもつなげることができた。

#### 子どもの気持ちに寄り添った対応を心がけている

子どもの声を大切に取り入れた保育を行うことを心がけており、クラスを超えて全職員で子どもの姿を把握し対応できるように努めている。子ども同士のトラブルに対しては、必ず双方の話をきいたうえで、子どもと一緒に考え気持ちに寄り添った対応を心がけている。子ども同士の関わりにおいても、子どものやさしい気持ち、みんなのための対応などを見逃さないように努めるようにしている。

#### 一人ひとりが自信を持ちチャレンジする心が育つように援助している

子ども一人ひとりと向き合うことで信頼関係を築き、「失敗」を受けとめることで一人ひとりが自分に自信を持ち様々なことにチャレンジする心が育つように援助している。日々の保育の中での小さな「失敗」は子どもたちの試行錯誤であるという保育目標に沿って、子どもの遊びや活動が広がるように取り組んでいる。

#### ◇改善を求められる点

#### 中長期計画（事業計画）の進行状況を定期的に把握する仕組みを構築されたい

法人として中・長期の事業計画を策定し、それをもとに年度単位の事業計画を作成している。計画書には、指導計画の骨子などの事業の方向性を示唆する内容を明示している。単年度計画は年初の職員会議において施設長より方向性が示唆され、各担当で進捗状況を振り返り、達成に取り組んでいる。さらに、中長期事業計画書や単年度事業計画を期中において定期的に振り返り、達成、未達成、進捗状況などを職員間で共有し、園一丸となって達成に取り組む体制作りが望まれる。

#### 職員体制を整え保育の質の充実させることを課題としている

常勤職員が少ないことを踏まえ、非常勤職員の協力を得ながら日常的な園運営に取り組んでいる。ただし、タイトな人員性は否めず、勤務日数や勤務時間などを含めて常勤・非常勤職員併せて一人ひとりの負担が増えていることもうかがえる。職員個々の事情もあることも踏まえ、職員体制や子ども一人ひとりに向き合う時間を充実させ、さらに保

育の質の充実を図ることを目指している。

#### コロナ禍において実施できなかったことについて

今年度は、年度当初よりコロナ禍における緊急事態宣言の発令や感染拡大防止対策などの観点から、保育においても家庭との連携においても様々な中止や変更が必要とされた。特に就学に向けた年長児の交流のなど地域との関わりについては、多くが中止され機会が失われている。終息が見えない中で、新しい生活様式での地域との関わり方や、工夫にむけて検討を始めている。

#### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

普段気付かない細かい部分は勿論、気を付けて改善していかないといけない事へのご指摘・ご指示を頂き、会社・園としてより高い意識をもち、保護者様・お子様に寄り添う保育・運営を行っていきたいと思います。

高い評価をして頂いた部分もあり嬉しい反面、継続していく・改善していくことがより明確になりましたので、今後の保育運営に役立てていきたいと思います。

ありがとうございました。

#### ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり